

在宅看護学実習	3年・前期	2単位	講師 片桐貴子 他
科目カテゴリー	看護提供のあり方	科目ナンバリング	33310883

1. 授業のねらい・概要

本科目は、在宅療養者とその家族の生活や訪問看護の実際に行き届くことで、地域で生活しながら療養する対象とその家族に対する具体的な看護実践方法を学ぶ。さらに、介護老人福祉施設における在宅支援に参加し、在宅療養に関わる保健・医療・福祉の地域ケアシステムにおける多機関多職種との連携・協働のあり方について理解する。

2. 到達目標

1. 訪問看護活動を通して、在宅療養者とその家族への理解を深めると共に、生活の場に応じた看護技術を理解する。
2. 地域ケアシステム、関連制度、保健・医療・福祉について理解を深め、関連機関・多職種との連携・協働の実際や必要性を理解する。
3. 継続ケアの視点から在宅、施設、医療機関における看護師の役割や連携方法を学ぶ。

3. 授業の進め方

訪問看護ステーション、通所介護サービス事業所にて実習を行う。

4. 授業計画（実習/実技）

- | | |
|---|-----------|
| <ol style="list-style-type: none"> 1. 実習期間：3年前期，2週間 2. 実習施設：群馬県内の訪問看護ステーション・通所介護サービス事業所 3. 訪問看護師の同行訪問実習・在宅療養における事例学習
通所介護サービスの参加実習・在宅療養者の資源マップ作成 | 詳細は実習要項参照 |
|---|-----------|

5. 成績評価の方法・基準

実習評価 80%，試験評価 20%で総合的に評価する。なお、実習評価 60 点以上、試験評価 60 点以上を合格とする。

6. テキスト・参考文献

テキスト：1)看護実践のための根拠がわかる 在宅看護技術 メヂカルフレンド社
2)ナースング・グラフィカ 在宅看護論①地域療養を支えるケア メディカ出版
3)写真でわかる訪問看護アドバンス インターメディカ
および、既習の授業で配布された資料

7. 準備学習に必要な時間、又はそれに準じる程度の具体的な学習内容

事前学習として、在宅ケアに関する関連制度、社会資源、在宅看護の対象・疾患・特徴、訪問看護ステーションの機能・役割、日常生活援助技術・基本技術について実習開始までにノート等にまとめる。実習前に基礎知識評価試験を行ない、実習中の学びを実習記録に記述し、実習終了後に実習全体の学びについてレポートにまとめる。

8. 受講上の留意事項

訪問看護の実際について学ぶことのできる貴重な機会である。短期間であるため事前学習を十分に行ない、プライバシー保護、人権尊重など倫理的課題について考えて実習すること。
本科目の履修にあたっては、在宅看護学概論、在宅生活支援技術が先修科目となる。

9. 課題に対するフィードバックフィードバック方法

提出された事前学習は教員が確認して返却する。内容が不備なものは再提出を求める。

10. 卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連

必修科目であり、修得できない場合進級不可となる。

11. 実務経験のある教員等による授業科目

看護大学における在宅看護の講義・実習指導経験、医療機関における看護師としての実務経験、行政機関及び医療機関における保健師としての実務経験等を活かして実習の指導を行う。